



## 競争環境が生み出す美しいさえずり

春告鳥という何とも風雅な別名を持ち、その美しいさえずりから日本三鳴鳥に数えられるウグイス。ウグイスの声を聞くには山里に行かないと、と思いがちだ。確かに「ホーホケキョ」の声はそうかもしれないが、冬の間は、山間部の厳しい寒さを逃れて平地で暮らしているウグイスは多く、11月から2月にかけて、都内の公園でも地鳴きの声を聞くことはできる。藪の中を好むため、その姿を拝むことはなかなか難しいが、公園で良く見かけるクマザサの中から「チャッチャ」「ジャッジャ」という声が聞こえたら、それはウグイスである。「笹鳴き」という季語は、笹の葉の陰から聞こえてくる地鳴きからきたもので、ウグイスを表している。

しかしながら、ウグイスと言えば「ホーホケキョ」であろう。このさえずりをするのは雄のみで、縄張りの主張、雌への求愛を示す。春先の鳴き始めはたどたどしく、思わずクスッとしてしまうが、大きな声で上手にさえずりができないと、縄張りも確保できないし、雌にも振り向いてもらえないから必死だ。競争環境にあることが、美声を生み出しているともいえる。実際、環境の変化が、美声に影響を及ぼすという調査結果がある。

ハワイにもウグイスが生息しているが、これは約80年前に日本から持ち込まれ野生化した。ハワイのウグイスのさえずりは「ホーホピッ」「ホー

ピョッ」で、実際声紋を分析すると音の数が少ないそうだ。日本のウグイスは、季節によって生活圏を変えるため、縄張りの確保に向けた競争が激しい。しかし、ハワイの場合、通年同じ場所に留まるため競争がゆるく、それがさえずりにも省略という形で表れているという。美しいさえずりは、競争環境の賜物なのだ。

その美しさは、人間社会では「進展」であり、金融ビジネスにも通じるものがある。金融当局が、金融機関に競争を促すのは、それが顧客本位の源泉と考えるからだ。銀行業界にオープンAPIの導入を促しているのもその一例だろう。オープンAPI導入が拡大することで、顧客は金融商品・サービスを比較することが容易になる。それが、金融機関を競争に導き、顧客本位の商品・サービスの進展につながる。「競争促進」を推進するイギリスでは、まさに競争・市場庁（CMA）が、オープンAPI導入を命令という形で促している。

さて、わが家のセキセイインコは非常におしゃべりである。ならばと思い、ウグイスのさえずりを覚えさせたら、イントネーションが「法華経」になってしまった。環境がぬる過ぎるようだ。（錢谷 馨）

（参考文献）①『鳥はなぜ鳴く？ホーホケキョの科学』（松田道生、理論社）、②「ハワイに移入されたウグイスにおけるさえずり構造の急速な変化」（濱尾章二）